

2019年室内環境学会学術大会 学生懇談会実施報告

増田 美里, 新堂 真生, 大石 純菜, 大石 真菜, 船水 純那

静岡県立大学 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

Report on the 11th practice of student meeting held in annual meeting on Society of Indoor Environment, Japan 2019

Misato MASUDA, Mai SHINDO, Junna OHISHI, Mana OISHI, Junna FUNAMIZU
University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 422-8526, Japan

University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 422-8526, Japan

Key words: 学生懇談会 (Student Meeting), 交流 (Interaction), ディスカッション (Discussion)

1. はじめに

本学会における学生懇談会は今年で11回目を迎えます。学生懇談会は、本学会の学生活動をより盛んにすることを目的とし、学会に参加する学生同士の親睦や情報交換の場として活動しています。

学生懇談会は2009年に第一回が行われてから毎年開催され、大学や専攻・学年の垣根をこえて交流が行われています。今回の第11回の学生懇談会では18名の参加があり、大きな盛り上がりを見せました。本報告書では当日の進行と記録を、学生世話人が参加者を代表して報告します。

2. 実施概要

日 時：2019年12月5日(木) 13：30～14：30

場 所：沖縄県市町村自治会館(C会場)

テーマ：学生間の交流を深める

学生世話人：

増田美里(学生会員, 静岡県立大学)

新堂真生(学生会員, 静岡県立大学)

大石純菜(学生会員, 静岡県立大学)

大石真菜(学生会員, 静岡県立大学)

船水純那(学生会員, 静岡県立大学)

プログラム：

- 1) 開催趣旨説明
- 2) 参加者の自己紹介
- 3) グループディスカッション
- 4) 内容発表

5) まとめ

スタイル：ランチョン形式

参加者：静岡県立大学(6名), 東海大学(7名), 横浜国立大学(3名), 東京学芸大学(1名), 東北文化学園大学(1名)計18名

3. 実施内容

3.1 開催趣旨説明

この学会に参加する学生は専門としている研究分野が様々ですが、「室内環境」という共通点があります。今回の学生懇談会では、それぞれが研究生生活を振り返り、今までの研究や将来について自由にディスカッションしていこうと考えました。この懇談会で様々な学生が集まり交流することで、共感や新たな発見などから互いに刺激を受け、視野を広げることのできる交流の場にしたいという意図から、テーマを「学生間の交流を深める」としました。

3.2 参加者の自己紹介

学生懇談会は参加者の自己紹介から始まりました。所属大学と学年、氏名に加え、一言(自分の研究内容)をいただきました。自己紹介の時間が過ぎていくにつれ、各自の緊張もほぐれ、和やかな雰囲気になりました。

3.3 グループワーク

今回の学生懇談会では、より多くの他の大学の学生同士が交流できるように、グループを作りました。

今回は2つのテーマについてグループで議論しました。学生世話人からテーマが与えられ、参加者が与えられたテーマに沿って時間内で自由に意見を出し合い、各グループで意見をまとめて発表しました。今回のテーマは①自身の研究から得られたこと・学んだこと、②将来どのような自分になりたいか、としました。テーマについて一人一人が意見を出すだけでなく、学生同士で質問しあったり、互いの経験を話したりするなどして、自由な雰囲気の中で話題を共有しました。学生懇談会では、飲み物とお菓子を用意して、参加者はお菓子を食べながら、楽しい雰囲気の中で議題について話し合っていました。



写真1 開催趣旨説明の様子

1つ目のテーマ「自身の研究から得られたこと・学んだこと」では、各参加者がグループ内で自由に発言しました。そして、グループ内で出た内容をグループの代表が発表し、グループ内だけでなく、参加者全員で意見を共有しました。研究から得られたこととしては「問題解決能力」や「忍耐力」などが挙げられました。そして、「他人に研究内容を説明することの難しさ」に気づいたという参加者もいました。どのグループにも共通して、研究をしていく中で、人とのコミュニケーションの大切さを学んだという学生が多くいました。各グループ内でディスカッションしていく中で、それぞれの参加者の研究や研究室の様子なども垣間見ることができ、各グループの参加者同士が打ち解けていくのが分かりました。

2つ目のテーマ「将来どのような社会人になりたいか」では、現在研究をしていく中で、「学んだことを生かしていきたい」、「報告・連絡・相談を大切にできる社会人になりたい」という意見や、「縦と横のつながりを大切にできる社会人になりたい」という意見が挙げられました。



写真2 グループワーク内容を発表する様子

最後に、参加者に懇談会の感想を伺ったところ、「他の大学の人と交流できて有意義な時間を過ごせた」という意見が多く挙がり、参加者皆が同じように感じていることが伺えました。



写真3 学生懇談会 集合写真

4. まとめ

今回の学生懇談会は、普段なかなか交流する機会のない学生同士が交流できる良い機会であったと思います。今回の学生懇談会での交流を通して、感じたこと、刺激を受けたことが今後の励みとなり、今後の研究生活だけでなく、社会に出た後にも、大いに有意義な活動であったと思います。

今後、このような学生懇談会を更に盛り上げていくためには、今回のようなグループディスカッションだけでなく、更に工夫をしていくことが重要であると思いました。